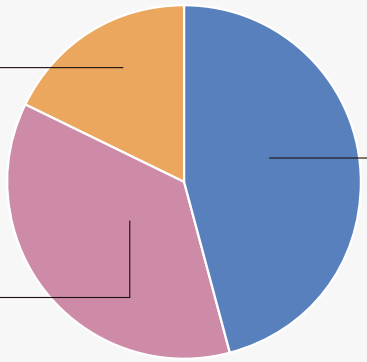
価値創造の取組み

「人を中心としたオートメーション」の理念のもと、
私たちは、お客様とともに、現場で価値を創ることで自らも
継続的に成長していくことを目指しています。

ここからは、まず、ビルディングオートメーション（BA）事業、
アドバンスオートメーション（AA）事業、ライフオートメーション（LA）事業、
これら3つの事業の展開についてご説明します。
さらに、こうした事業展開を進め、お客様と社会の長期パートナーとして
オートメーションによる価値創造をたゆむことなく続けていくために必要不可欠な
azbilグループならではの開発から生産、営業、エンジニアリング・施工、サービスに至る
バリューチェーンと品質保証・安全への取組み、そして、それらを支える
人材育成についてご紹介します。

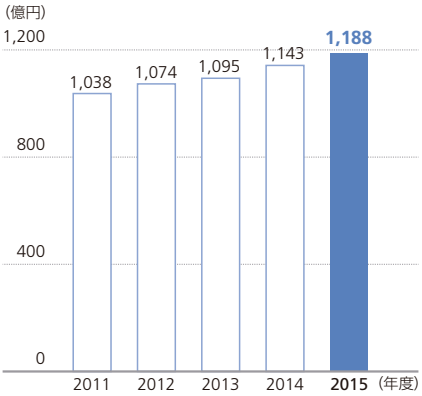
At a Glance

セグメント別売上高構成比（2015年度）

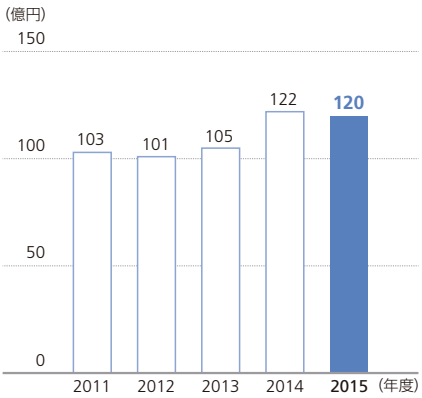


ビルディングオートメーション（BA）事業

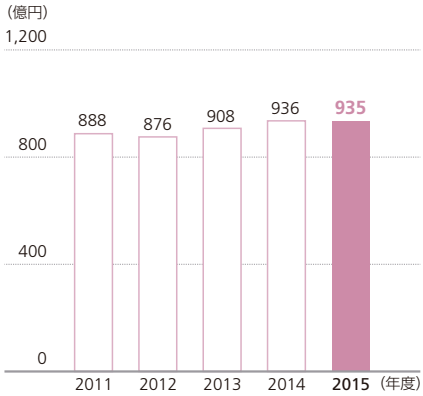
売上高

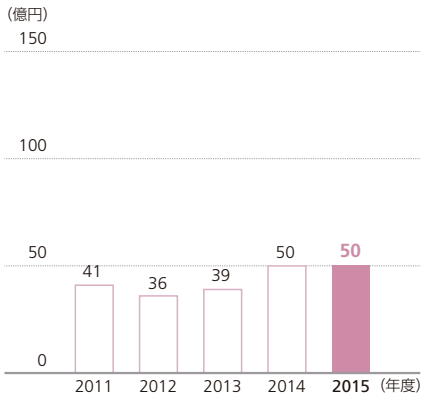


セグメント利益（営業利益）

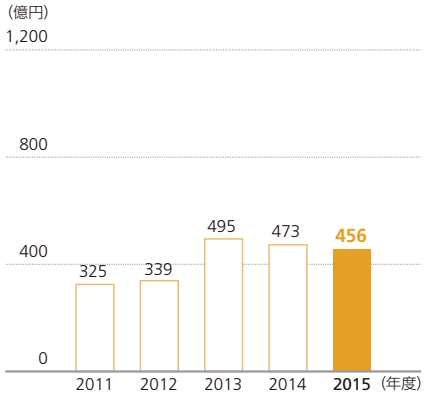


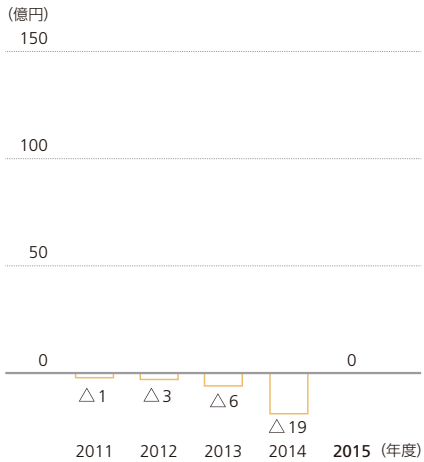
アドバンスオートメーション（AA）事業





ライフオートメーション（LA）事業





※ 2015年度にセグメント間の内部売上高又は振替高の測定方法に変更があったため、
2014年度の数値を変更後の測定方法で見直しています。

事業の詳細は、P.18-20の「azbilの事業」をご覧ください。

ビルディング オートメーション（BA）事業

アズビル株式会社
取締役 執行役員常務
ビルシステムカンパニー社長
不破 慶一

2015年度の業績ハイライト

売上高

1,188億円 ↗
（前年度比3.9%増）

セグメント利益

120億円 ↘
（前年度比1.9%減）

- 国内では新設建物分野が大きく伸長し、海外も増収
- 事業強化のための体制整備や研究開発費等各種費用の増加、及び基幹情報システム導入を機に行ったジョブ損益管理方法の統一の影響等からセグメント利益は微減

国内再開発案件等の需要を着実に取り込むとともに、収益性の高い既設建物の改修やサービスの提案活動を行い、加えて、海外における実績を積み重ねることで増収、増益の基盤を築きあげます。

事業環境

2015年度（2016年3月期）の国内経済は、年度後半に内需・外需ともに弱い動きとなり景気は足踏み状態となりましたが、ビルディングオートメーション（BA）事業を取り巻く環境は堅調に推移しました。国内市場においては、首都圏における都市再開発案件や東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた建設需要に加えて、省エネルギー・省コスト運用に対するソリューション需要も継続しており、全体として活発な投資が続きました。一方、海外市場においては、新興国の経済成長鈍化の影響等からタイや韓国をはじめとして、新興国各地の建設投資が停滞しました。

2015年度のレビュー

こうした事業環境の中、国内市場における活発な建設投資に対応し、顧客・地域密着型の営業・サービス体制の強化を推進するとともに、ジョブ遂行体制の整備に努めたことで新設建物分野の売上が大きく増加しました。また、グループ内人材最適配置等により既設建物分野及びサービス分野の売上も引き続き高水準を維持することができました。

海外市場においては、事業環境は悪化しましたが、azbilグループの強みである省エネソリューション等によりローカル市場の開拓が着実に進み、中国を中心に全体として海外売上は拡大しました。

セグメント利益は、新規案件の増加による売上構成の変化の影響に加えて、将来にわたる建物のライフサイクルでの事業機会を見据えた施策・体制整備や研究開発費用の増加、新基幹情報システムの稼働に伴う費用増加及び当該システム導入を機に行ったジョブ損益管理方法統一の影響等から、わずかに減少しました。

今後の展望

国内市場においては、前述の通り首都圏における再開発等の新設案件の受注が積みあがってきており、今後さらに伸長が見込まれます。こうした受注案件を、これまで強化したジョブ遂行体制で着実に実行するとともに、施工でのコスト改善やジョブ管理強化等に継続して取り組み、収益を確保していきます。省エネルギー・省コストに対するソリューション需要も堅調です。さらに、2018年頃から大規模建物のリニューアルが計画されており、COP21において2020年以降の温室効果ガス排出量削減に向けた合意がなされたことから建物における省エネ規制の強化も見込まれます。既設建物については、これらを見据えて現在から改修提案を行うとともに、メンテナンスサービスとも連携したazbilグループならではの建物のライフサイクルに合わせたソリューションを提案・提供していきます。

海外市場においては引き続きアジア地域の新興国を中心に、国内で蓄積した省エネルギーに関するノウハウを強みとして、現地のランドマーク案件の獲得に注力していきます。2014年度（2015年3月期）からは、海外の建物に対してもリモートメンテナンスを開始しています。国内と同様の付加価値の高いサービスの提供により、海外でも建物のライフサイクルでの事業モデルの確立を目指します。

2016年に入って、拡張性、操作性を一新し、国内で実績のある省エネルギーアプリケーションを搭載したBAシステムの海外市場投入を開始しました。ビッグデータやIoTにも対応し、ライフサイクルで蓄積されたデータを活用した製品開発を今後も進め、製品と技術への深い理解をベースとしたエンジニアリング・施工、サービス提供等、azbilグループならではの事業展開を国内外で進めていきます。

新製品開発については、P.40-42の「技術研究・商品開発」をご覧ください。

納入事例

❶ 納入先　❷ 事業フィールド

❶ 水口センチュリーホテル株式会社
❷ 宿泊施設、ESCO

省エネルギーに関する国の補助制度を活用し、ESCO事業としてBEMS※の導入や高効率設備への更新を実施。投資とリスクを最小化しつつ、目標値を上回る省エネ効果を達成。

❶ アマリウォーターゲートバンコク
❷ 宿泊施設

省エネ国際連携事業として日本の最新BEMS※を導入。空調・熱源設備全体の稼働状況や消費エネルギー量の見える化などを行い、ビル全体で15%の省エネを実現。

※Building Energy Management System

アドバンス オートメーション（AA）事業

世の中の技術トレンドが大きく変化していく中、azbilグループならではの技術と現場での価値創造を通じ、グローバル水準でのオートメーションを展開する高収益な事業体を目指します。

アズビル株式会社
取締役 執行役員常務
アドバンスオートメーションカンパニー社長
北條 良光

2015年度の業績ハイライト

売上高

935億円 ↘
（前年度比0.2％減）

セグメント利益

50億円 ↗
（前年度比0.3％増）

- 海外が中国等の需要減速の影響で微減となったものの、国内ではHA/FA領域、ソリューション領域への取組みにより前年度水準の売上を確保
- セグメント利益は、利益体質の改善が進み前年度水準を確保

事業環境

2015年度（2016年3月期）は、中国・アジア向け輸出の鈍化や円高進行等の先行き不透明感から製造業各社の慎重姿勢が強まり、総じて国内における設備投資は低水準で推移しました。装置メーカー向けの各種制御機器への需要が低迷したことに加え、素材関連の分野でも設備投資意欲が高まらず、一部市場で立ち直りが見られたものの全般としては厳しい環境となりました。

海外市場では、中国における景気減速が顕著となり、資源価格下落等が他の新興国の経済にも影響を与えました。また、米国の設備投資も新興国経済の減速や原油安・ドル高を受けて伸び悩み、欧州でも製造業の業績に減速感が見られました。

2015年度のレビュー

こうした事業環境の中、電気電子・半導体、自動車、化学（下流）といった先端産業や食品・薬品等の内需型産業及びこれら市場向けの製造装置産業向けのオートメーションを「ハイブリッドオートメーション／ファクトリーオートメーション（HA／FA）分野」と称し、これらの市場の開拓・深耕に取り組みました。また、LNG船を含めたガスのエネルギーサプライチェーンに係る分野で、安全、省エネルギーといったazbilグループならではのソリューション提供による事業展開を進めました。その結果、国内の売上高は全体として前年度並みの水準を確保しました。

海外市場では、北米で装置メーカー向けソリューションの提供が伸長しましたが、中国での設備投資の減速から素材関連分野を中心に厳しい事業環境が続き、これを主因として海外売上は微減となりました。

セグメント利益は、新基幹情報システムの稼働に伴う費用等の増加がありましたが、付加価値の高いソリュー

ションの提供と利益体質改善の取組みが進み、前年度水準を維持しました。

今後の展望

国内市場については、安全関連投資を含めた維持・更新投資を中心に一定の需要は期待できますが、為替の影響による企業収益の伸び悩みや国内外での景気減退の影響から、引き続き需要は低迷するものと見込まれます。海外市場においても、中国や新興国における経済の減速感が強まっており、先行きの見通しは不透明な状況です。また、ビッグデータやIoT、AIといった言葉に代表されるように技術潮流も大きく変化しています。今後、お客様の生産現場は、高度に知能化されるとともにさらなる生産の自動化が加速されることが予想されます。

こうした厳しい事業環境と技術動向に起因する産業構造の変化を踏まえ、グローバル水準でのオートメーションを展開する高収益な事業体を目指し、「成長戦略」の展開と「構造改革」の実行を行っていきます。

アドバンスオートメーション（AA）事業は、工場市場において多岐にわたるオートメーションを展開しています。今日の技術潮流変化を捉え、azbilグループならではの技術をてこに、また現場でのお客様との価値創造を通じ、新しいオートメーション領域、競争力あるオートメーション領域を数多く創出していきます。

また構造改革として、技術潮流の変化に対応した研究・開発体制整備、海外事業拡大に伴う海外事業基盤整備、事業の領域シフトに伴う事業推進体制の変更など、成長のための基盤整備を的確に行うとともに、国内においては収益構造改革に着手し、より高収益となる事業構造と事業体質を構築していきます。

納入事例

❶ 納入先　❷ 事業フィールド

❶ 松本ガス株式会社
❷ ガス

自営デジタル無線と可動式監視拠点を採用したガス供給設備の遠隔監視を導入。ガス供給設備の災害時に、場所を問わず供給状況を把握し、遮断等の対処を可能とする仕組みを実現。

❶ 本田技研工業株式会社
埼玉製作所　寄居完成車工場
❷ 自動車

最新の安全規格に準拠した燃焼安全制御を、自動車生産ラインの塗装空調・塗装乾燥・脱臭設備に導入。そのノウハウをグローバルに展開。

ライフ
オートメーション（LA）事業

アズビル株式会社
執行役員常務
ライフオートメーション事業 担当
日高 謙二

3つの領域での事業変革を継続、特にLSE分野における事業構造変革を仕上げることにより収益体質の確立を図ります。

2015年度の業績ハイライト

売上高

456億円 ↘
（前年度比3.6％減）

セグメント利益

0億円 ↗
（前年度は19億円のセグメント損失）

- 健康福祉・介護分野の事業譲渡の影響を除けばセグメント売上高は実質増収
- のれん償却費の減少に加えて構成各事業の構造変革が奏功し、黒字に転換

事業環境

ライフオートメーション（LA）事業は、建物・工場・プラントで永年培った計測・制御・計量の技術とサービスを、ガス・水道等のライフライン、製薬・医療・研究分野のライフサイエンス、そして住宅用全館空調システムの生活関連（ライフ）の3つの領域で展開しています。

当セグメントの売上高の大半を占めるガス・水道メータの分野（アズビル金門株式会社）では、法定に基づく各メータの定期的な更新需要のもとで事業を行っており、比較的安定した事業環境が望めます。2015年度（2016年3月期）は、こうした中でもLPガスメータの更新需要が拡大し、産業用メータの需要も伸長しました。産業向けにはガスの生産から配送に至るエネルギー供給ラインの領域等、ビルディングオートメーション（BA）、アドバンスオートメーション（AA）とのシナジー領域において事業機会が増加しています。

ライフサイエンスエンジニアリング（LSE）の分野（アズビルテルスター有限会社）では、世界的には経済成長の不透明感が強まっていますが、医薬品製造市場は、新興国におけるワクチンやジェネリック等、各国国民の健康・福祉につながるものであり、停まっていた需要が戻りつつあります。

住宅用全館空調システムの分野においては、温湿度の快適性はもとより、空気の清浄さや急激な温度変化によるヒートショックの抑止等、健康面での改善を求める施主向けに、主として注文住宅の市場でハウスメーカーが注力しており、今後の需要拡大が期待できます。

2015年度のレビュー

こうした事業環境の中、前年度に健康福祉・介護分野の事業を譲渡※した影響（△34億円）により、セグメント全体の売上高は減収となりましたが、各事業領域におけ

る変革活動が着実に進展し収益性が改善したほか、のれん償却費の減少もあって、前年度のセグメント損失から利益計上への転換を果たすことができました。

ガス・水道メータ分野の売上高は前年度並みとなりましたが、水道事業における受注採算重視の取組み等により増益となりました。

LSE分野においては、オランダ及びブラジルの事業会社における業績の悪化が見られましたが、中核であるアズビルテルスター本体での業績改善は進捗し、全体としては増収と事業構造変革の取組みにより、収益は改善しました。

住宅用全館空調システムの分野においては、営業モデル・体制の変革、マーケティング・開発体制整備に取り組んだことにより、受注・売上が拡大し、収益体質も強化されました。

※ 健康福祉・介護分野の事業を譲渡
健康福祉・介護の分野においてサービスを提供してきたアズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を、2015年2月に綜合警備保障株式会社へ譲渡しました。

今後の展望

2016年度（2017年3月期）の業績は、各領域における事業構造変革の成果及びのれん償却費の減少によりセグメント利益での大幅な改善を見込んでいます。特に、LSE分野においては、業績が悪化したアズビルテルスターのオランダ、ブラジルの2社の事業の再編により、2014年度（2015年3月期）下期からの抜本的な事業構造変革の仕上げを行い、収益性を大きく改善させます。これら2社の業績悪化を受けて、今回、事業の将来の収益性の見直しも行いのれんの減損損失※を計上しましたが、これにより、将来において見通すことのできるリスク要因に対処することができました。その他の領域についても引き続き事業体質の強化、構造変革の取組みを継続して行うことでLA事業としての収益体質の確立を目指します。

今後は、ガス・水道メータの分野では、AA事業との技術面や販売面でのシナジーを推し進め、従来のメータ販売ビジネスから付加価値の高いソリューション型ビジネスへの転換を目指していきます。ライフサイエンスの領域では、再生医療など市場の拡大が続いています。LSE分野については、回復が見られる製薬市場の需要拡大を確実に捉えていくとともに、アズビル本体との連携により強みのある製造装置の開発・強化を進め、市場の成長を取り込んでいきます。全館空調システムについては、営業モデルと体制変革の成果を基に、さらに健康ニーズ等を捉えた新製品の投入を進め売上を拡大していきます。

※ のれんの減損損失
アズビルテルスター有限会社に係るのれんの減損損失として2015年度に30億1千2百万円を計上しています。

LSE分野の事業安定化、利益創出に向けた取組みを2015年度より開始

事業再編

体制整備（人員・管理コスト低減）を実施

2016年度実施事項

オランダ子会社の事業再編（2016年度）（クリーンルーム、装置事業の欧州全体での再編）
ブラジル子会社の事業再編、構造変革（2016年度）（クリーンルーム事業の見直し）

プロジェクト管理の見直し・強化

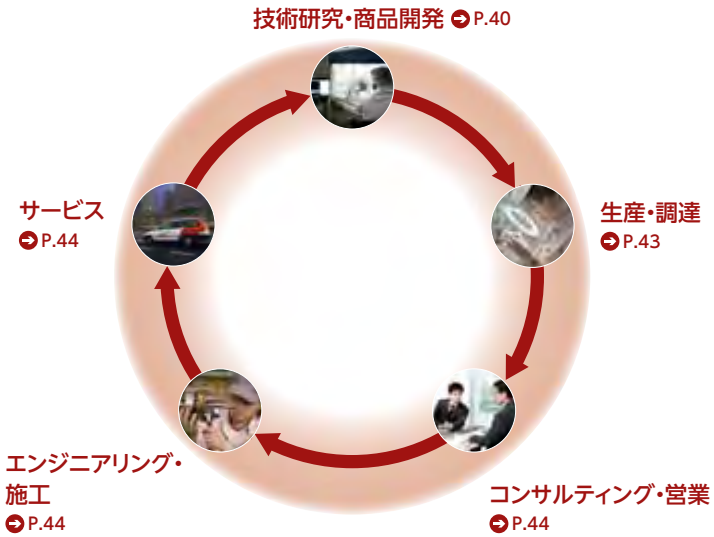
提案から設計・生産・納入・保守までを
一貫事業構造として管理レベルを向上。

製薬市場向け製造装置事業の強化

製造装置事業に集中して営業体制を再整備。
アズビル本体との連携による技術・製品強化。

バリューチェーン

ビルディングオートメーション（BA）事業、アドバンスオートメーション（AA）事業、ライフオートメーション（LA）事業の3つの事業で、商品開発から生産、営業、エンジニアリング、施工、サービスに至る一貫体制のもと、お客様の現場で培った知識やノウハウを活かした高付加価値なソリューションをグローバルに提供しています。



技術研究・商品開発

「人を中心としたオートメーション」を進化させる「5つの戦略技術領域」での技術・製品の企画・開発を行うとともにグローバルでの研究開発体制、設計開発基盤の強化により商品力を強化、事業展開を後押しします。

▶ 技術研究・商品開発方針

「人を中心としたオートメーション」の理念に基づく次世代商品を迅速にお客様へ提供するため、マーケティング部門と研究開発部門の連携を強め、効果的・効率的な運営体制としています。中長期にわたり普遍的な価値を提供することのできる5つの戦略技術領域を定めて独自の研究開発を行うとともに、3つの成長事業領域に向けた商品開発を強化しています。また、事業のグローバル展開に合わせて、米国シリコンバレーに設置した研究開発拠点及び欧州グループ会社による、日本・米国・欧州の3局体制で技術・商品の開発を行っています。

▶ 5つの戦略技術領域

社会やお客様、技術等の動向を中長期的視点で捉え、次の5つの戦略技術領域を定め、「人を中心とした」の理念に基づいて提供する価値、「安全・安心」「品質・生産性・快適性」「環境・省エネルギー」を具体的に実現するために必要となる技術研究・商品開発を行っています。

5つの戦略技術領域

人間・機械融合システム技術	自在計測制御技術	わかる化プロセス情報技術	環境調和計測制御技術	快適空間計測制御技術
人の手の器用さ、視覚認識機能などを取り入れた高度知的生産システム。	MEMS※技術とパッケージング技術の粋を活かした超小型・省エネワイヤレスセンサ群。	大規模で複雑な対象でも省エネポイントや設備改善箇所の認識・特定を迅速かつ容易に可能にし、人の意思決定を支援する情報処理。	スマートグリッドに代表される今後の社会環境インフラに必要となる環境変化を学習して最適なエネルギー供給を行う計測・制御システム。	人など熱負荷の所在に応じて空間の温度分布を最適に制御する省エネ空間制御。

※ MEMS（Micro-Electro-Mechanical Systems）：微小電気機械システム。機械要素部品、センサ、アクチュエータ、電子回路を一つのシリコン基板、ガラス基板、有機材料などの上に集積化したデバイス。

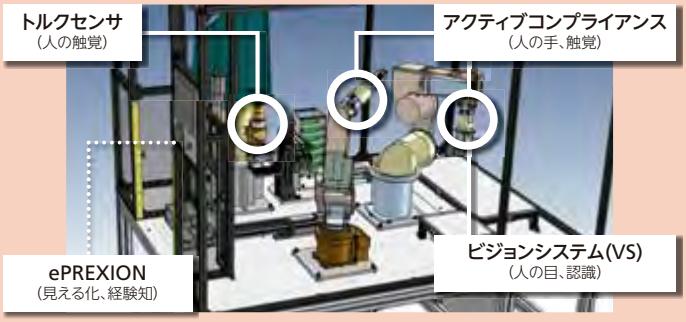
技術研究開発の事例

人間・機械融合システム技術:

やわらかな機械システム

提供価値: 工芸品や和菓子の職人の手仕事のような、やわらかさを必要とする作業の自動化。

開発内容: 人の手や視覚、知能を機械化し、段替え不要ですべての組立てを実現して、変化に対応できる全自動組立てシステム。

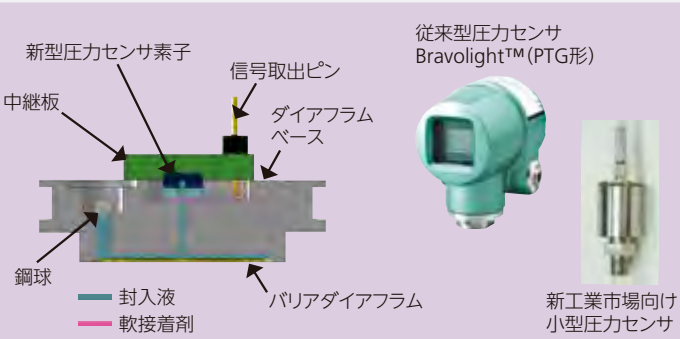


自在計測制御技術:

小型圧力発信器向け圧力センサ

提供価値: 従来型の1/10のサイズを実現し、温度特性、再現性も向上。加えて許容圧力を向上させたことで使用できるアプリケーション範囲を拡大。

開発内容: 封入液の極少化を徹底追究し、ハーメチックシールを必要としない構造により、小型化・高精度化した圧力センサ。

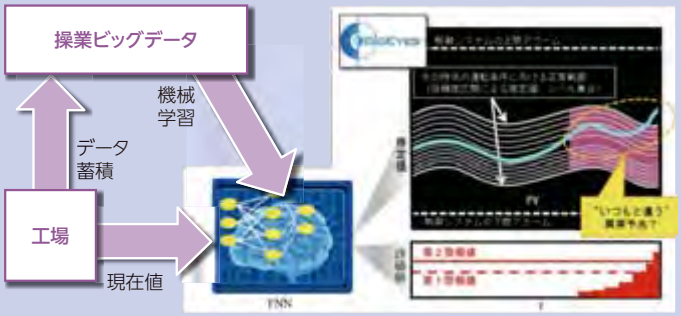


わかる化プロセス情報技術:

製造現場の異常予兆検知システム

提供価値: 従来のアラーム機能では検知できない製造の異常を早期に検知。

開発内容: 製造現場の操業ビッグデータの正常時の振舞いを人工知能技術で学習させ、正常時とは異なる異常の予兆を検知するシステム。

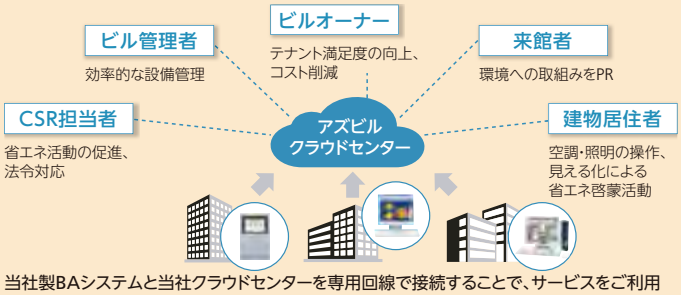


環境調和計測制御技術:

ビル向けクラウドシステム

提供価値: サーバ等の情報機器を保有することなく、インターネット環境のある、あらゆる場所から最新のアプリケーションでビル管理業務を可能に。

開発内容: クラウドシステムによるエネルギー管理、設備保全管理、テナントサービス等の機能によるビル管理業務支援システム。



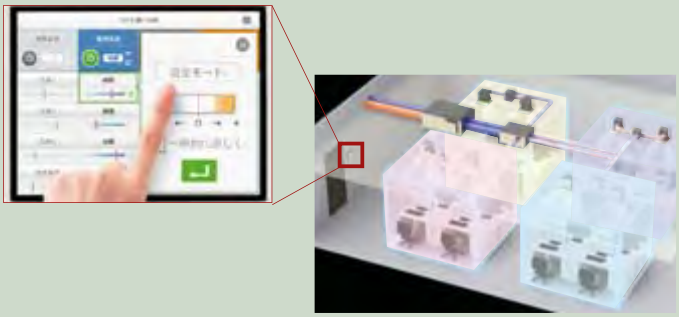
当社製BAシステムと当社クラウドセンターを専用回線で接続することで、サービスをご利用いただけます。

快適空間計測制御技術:

セル型空調システム

提供価値: 人の温冷感に応じた空調機器の吹出口の風量・風向きの自動制御による快適温熱環境。

開発内容: 人の温冷感と空調機器の風量・風向きの関連性を解明し、温冷感申告に応じて空調を自動制御するシステム。「きめ細かな気流による快適環境」と「操作しやすい温冷感申告インターフェース」を実現。



▶ 3つの標準化の取組み

国際標準、開発・設計の標準化、計測標準の3つの取組みにより、機能・コスト・品質・信頼性の向上や安全性の強化を図ることによって、事業の競争力を高めていきます。開発・設計の標準化における業務のIT化を推進し、開発・設計のQCD強化とグローバル対応を行っています。

開発・設計の標準化

知識の一元化

- BOM※による製品情報（QCD等）の徹底活用
- 設計情報（技術報告書、知見・ノウハウ）の徹底活用
- 標準部品、技術標準の活用促進

開発・設計のフロントローディング

- 初期段階で3DデータとBOMの連携・徹底活用
- 初期段階から製品情報を共有し効率化を図る

→

- Quality　品質は設計で造り込む
- Cost　コストの造り込みを容易にする
- Delivery　トータルで市場投入を早く
- Global　グローバルで使える仕組みに

※電子化された部品表

▶ 知的財産・ブランドマネジメント

知的財産戦略　知的財産を重要な経営資源と捉え、特許権をはじめとした権利の取得・保護に取り組んでいます。

中期経営計画で定めた3つの成長事業領域、「生産及び執務居住空間での次世代ソリューション」「エネルギーマネジメントソリューション」「安全・安心ソリューション」を軸に重点商品・技術開発分野を整理し、事業戦略及び研究開発戦略と連携してパテントポートフォリオ構築に取り組んでいます。

事業のグローバル展開に対応し、海外についてもマーケティング部門、開発部門、知的財産部門が協議の場を持ち、戦略上の位置付けを判断して出願しています。

また、研究開発の自由度を確保するため、製品の設計段階で他社が保有する知的財産権の状況を調査しています。日本、アメリカ、中国の特許公報を通して他社の情報を毎月1,000件以上確認しています。

ブランドマネジメント　社名やロゴなどの「azbilブランド」の使用に関するルールをグループ規程として制定し、グローバルで徹底しているほか、自社製品にazbilロゴを使用する際のルールや、他社製品にazbilロゴを使用する際の導入手順を明確化するなど、グループ内においてブランドに対する意識の向上を図っています。

さらに、「azbilブランド」侵害監視や事業活動に使用している自社の著作物の管理を進めるなど、ブランド毀損リスクや事業機会損失の低減に努めています。グループシンボル「azbil」を世界約100ヵ国で積極的に商標登録し、ブランド保護に努めています。

特許及び研究開発関連データ

年度	2011	2012	2013	2014	2015
特許					
出願件数	428	476	502	513	**506**
保有件数	1,742	2,124	2,458	2,703	**2,762**
研究開発費（億円）	88	78	87	101	**110**
売上高研究開発費比率（%）	3.9	3.4	3.5	4.0	**4.3**

生産・調達

グループ全体で、グローバルな視点で地域・製品別に最適な生産・物流体制を整備するとともに、
事業環境の変化に強い、競争力ある体制を構築します。

▶ 国内外での生産体制整備

グローバルな事業展開を支える最適な生産体制を目指し、日本、中国、タイを3局とした海外生産の拡大と拠点機能の強化に取り組んでいます。タイ生産拠点においては2014年に新設した工場でコンポーネント製品を中心に生産規模拡大を行い、中国大連の生産拠点ではバルブやスイッチ製品の生産能力拡張を行っています。

さらに、海外の生産拠点から各国へ直接販売する物流や仕組みの整備、また海外部材調達の拡大、及びバリューエンジニアリング強化による調達コストの低減とともに、バルブ設計や流量計校正などの地域特性に合わせた機能強化を進めています。

一方、グループ会社であるアズビル金門株式会社でも、事業環境やお客様ニーズの変化に対応すべく、国内生産拠点5工場を3工場に集約し、生産体制の最適化を図っています。

これらの施策をさらに推し進めることで、海外生産比率を3割強へ高めていきます(2015年度(2016年3月期)実績は2割半ば)。

▶ 新たなグループ主力工場の構築

国内外の生産体制最適化施策の一環として、湘南工場と伊勢原工場を集約する形で湘南工場への1拠点化を図り、グループ主力工場として位置付けます。2019年春までに、湘南工場敷地内に新工場を建設して、高度な生産技術や設備を備えた生産ラインを配置します。藤沢テクノセンターにおける研究開発拠点整備と有機的に連携し、同工場を起点にグループ全体のモノづくりの高度化を進めていく計画です。

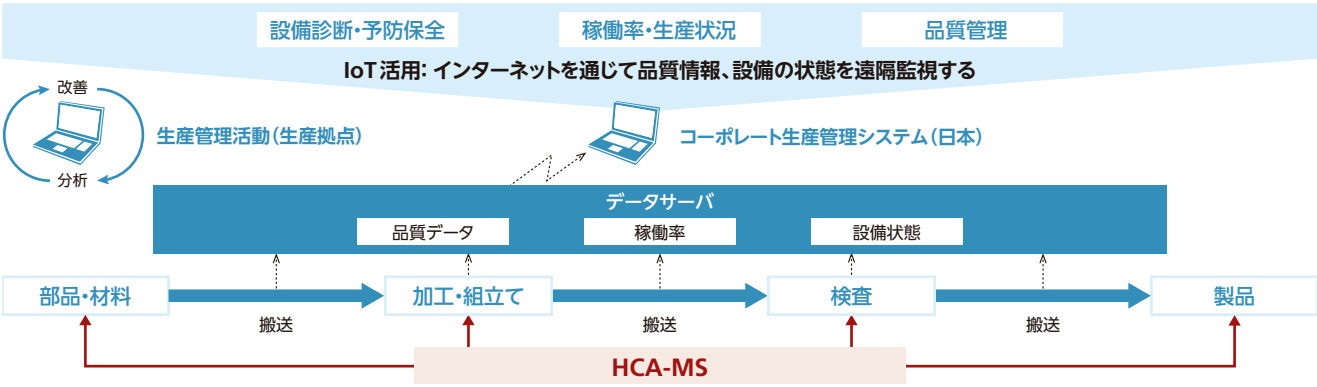
▶ 生産工程の革新と海外展開

生産工程の効率化や品質向上を図るため、生産技術の高度化に取り組み、組立て・加工技術や画像処理技術等を追求しています。azbilグループ独自のHCA-MS※概念を基本に、人の持つ能力を機械化した工程の自動化に取り組んでいます。この適用範囲を国内工場から海外工場へ展開し、グローバルに品質の維持・向上を図るとともにコスト競争力強化に努めます。また、IoT(Internet of Things)を活用した統合的な生産システムを構築し、各種情報を統合管理することでグローバル生産を強化していきます。

HCA-MS導入生産ラインの一例

※ HCA-MS(Human-centered Automation-Manufacturing System):
グループ理念である人を中心としたオートメーションを生産システムで実現したもの。人の手の能力(触覚)や目の能力(視覚)、及び知能など人の持つ能力を機械化して従来の技術では困難な工程を自動化することで機械の持つ正確さと人の柔軟性を兼ね備えたシステム。機能はモジュール化されているので再利用が行え、生産設備の変更や拡張に柔軟に対応できる。

HCA-MSを導入した生産ライン



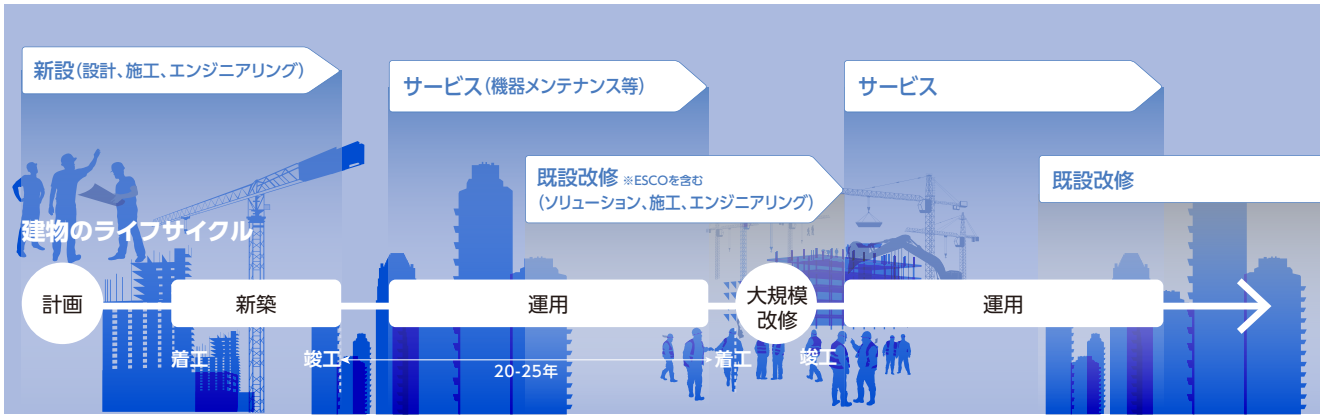
営業・エンジニアリング・施工・サービス

コンサルティング・営業から、エンジニアリング、施工、サービスに至る一貫体制のもと、お客様の現場で培った知識やノウハウを活かした高付加価値なソリューション、サービスをグローバルに提供しています。

▶ トータルソリューションを提供

お客様の設備のライフサイクルでの価値を最大化するため、コンサルティング・営業からエンジニアリング、施工、サービスに至るazbilグループならではの一貫体制で、トータルにソリューションを提供しています。計画・運用・保守・改善・リニューアルといったライフサイクルの各段階における様々なニーズに対応するため、セールスエンジニア、システムエンジニア、フィールドエンジニア、サービスエンジニアがそれぞれの現場で最適なソリューションの提供に取り組んでいます。

建物ライフサイクルとビルディングオートメーション(BA)事業



営業・エンジニアリング・施工　建物やプラント・工場の現場でお客様が抱える様々なニーズや課題を共有し、その分析から解決策のご提案、そしてシステム設計から実際の現場での施工、調整までを一貫した体制で行います。

例えば、BA事業が取り組む建物の空調制御には、オフィスやホテル、病院といった施設用途特性に応じた課題があります。azbilグループは長年にわたって蓄積したノウハウと実際の運用データを基に、セールスエンジニアが施設用途や運用形態に基づき最適なBAシステムや制御機器、省エネソリューション、サービスをコンサルティング・ご提案します。フィールドエンジニアは製品に対する深い知識と現場対応力を活かし、現場エンジニアリングとともに工程の安全、品質、コストなどの施工管理を行い、お客様の要求通りの制御を実現します。

AA事業が取り組む製造現場のお客様のご要望も様々です。セールスエンジニアが、例えば工場の省エネ提案では、省エネ診断から投資効果の試算までを行い、解決策を提案します。製造工程改善の場合は、実際の製

造現場を調査し、お客様と一緒に課題の解決策を探求・共有し、自社製品のみならず、azbilグループの総合力で他社製品も加えたアプリケーションでニーズにお応えしています。また、先進の技術に精通したシステムエンジニアが、システム設計、アプリケーション作成を行い、高機能・高品質なシステムを構築します。お客様が装置メーカーの場合は、これまでに培われた信頼関係を基に製品供給だけではなく、装置の設計・開発段階でのパートナーとして、アプリケーションやカスタマイズの提案を行います。

サービス　設備プロセスやシステムに精通したサービスエンジニアが最適運転、定期点検、保守サービスを実施するとともに、緊急の問題にも迅速に対応しています。また、お客様の声を迅速かつ確実に製品・サービスに反映させ、グループ内で共有することで現場の技術・サービスの向上や効率化を図っています。

▶ サービス事業の構造改革

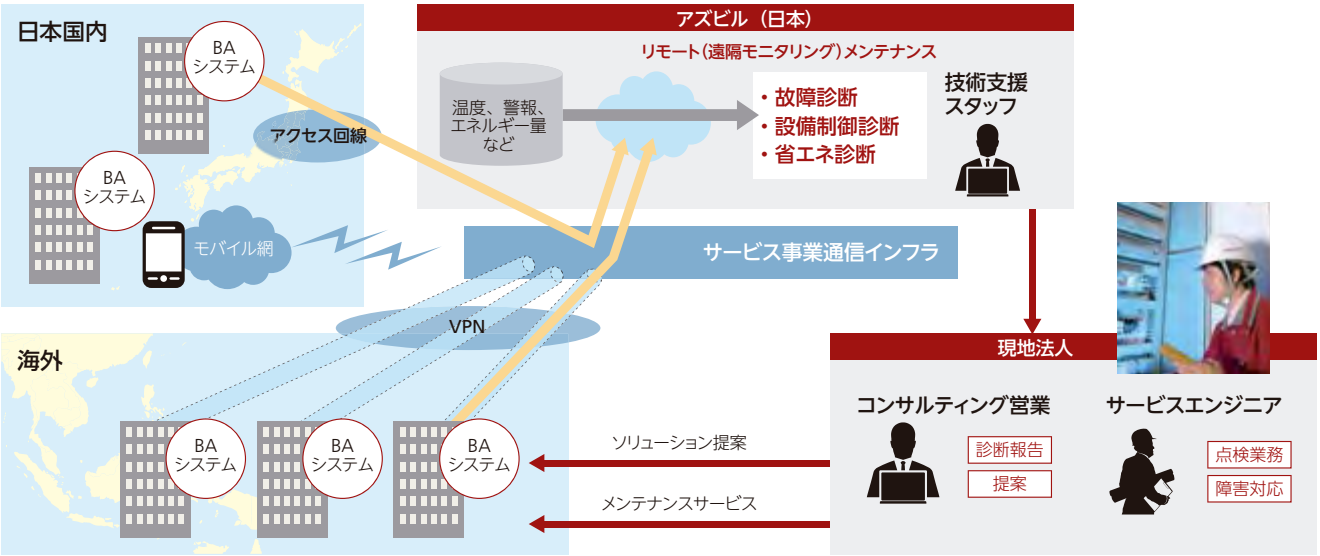
従来の労働集約型サービスから豊富なデータ・実績に基づいたソリューション提案を主体とした知識集約型サービスへの変革を推進しています。また、海外においても国内同様のサービスを提供すべく、体制の整備・強化、及び人材育成を進めています

知識集約型サービスの提供　制御・管理のプロフェッショナルならではの最先端技術と豊富なノウハウをベースとし、サービス業務のツール化を促進しています。ツール化によるオンサイト点検での作業効率化に加えて、遠隔地でのデータ収集、イベント解析、オフサイトでの専門家による制御動作点検等により、自動制御機器の適切な保全を行っています。また、常にシステムを適切な状態で稼働させ、万が一のトラブル発生時にも迅速な復旧を可能にするため、自己診断情報の収集・解析を行い、システムの信頼性維持に向けた予防保全を提案しています。

サービス事業のグローバル展開　調節弁の製品供給とメンテナンスを一括して行うソリューション型のバルブ事業を中国、台湾、タイ、シンガポール、インドネシアなどの主要な拠点に加えて、中東、北米にも展開をしています。また、海外建物の遠隔モニタリングを可能とするリモートメンテナンスを強化し、効率的な保守作業や省エネルギー提案を開始しています。

ビルの総合管理・保全を行う遠隔監視センター

リモートメンテナンスサービス基盤



品質保証・安全

確かな品質で安全・安心な商品をグローバルにお届けします。
お客様から信頼される製品・サービスの品質、安全・安心を事業展開に合わせてグローバルに実現します。

商品の品質と安全・安心の確保

「azbilグループ品質基本方針及び品質保証規程」「azbilグループ商品 安全・安心基本方針及び規程」を制定してグループの基本的な方針や考え方を明確にするとともに、各社毎に細かな規程、標準などを設けることで商品の品質、安全・安心の確保に取り組んでいます。

▶ 商品の品質

製品開発、サービス提供プロセスにおいて“品質の造り込み”を重要なポイントとし、グループ各社が目標を設定して取り組んでいます。azbilグループ品質保証委員会を定期的に開催し、各社の品質目標の達成状況と品質向上に向けた取組みのレビュー、共通する品質課題の把握と連携強化など、グループ全体として品質を造り込んでいます。また、事業展開に合わせて体制のグローバル化を進めています。

▶ 商品の安全・安心

「関連法令の遵守」「未然防止活動」「安全な商品提供」といった3つの取組みを柱として、商品の安全・安心に努めています。

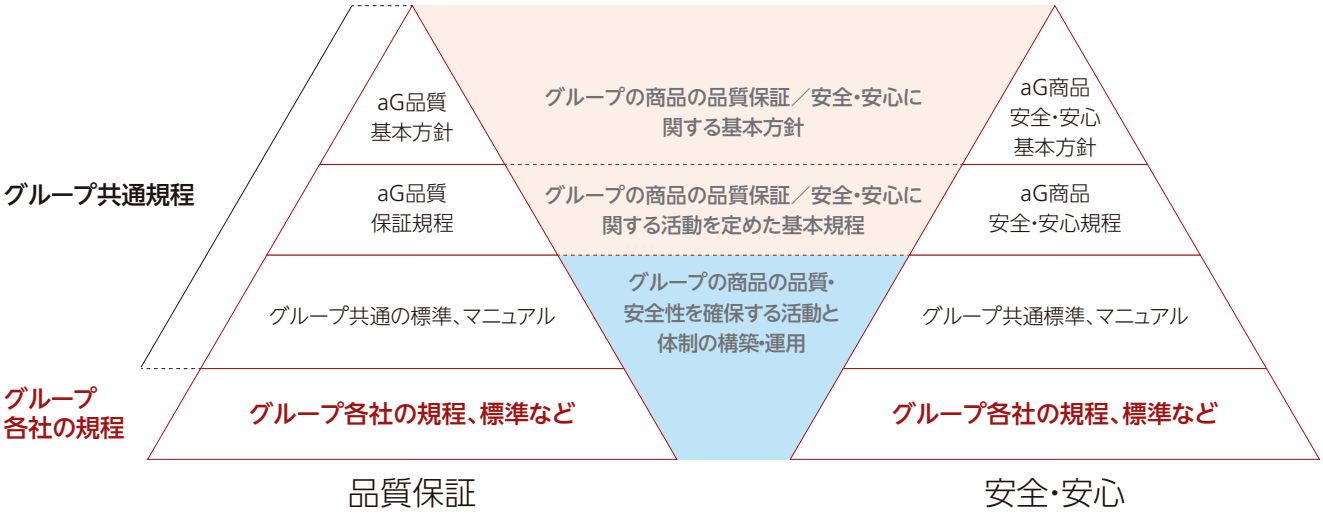
関連法令の遵守　製造物責任(PL)法、消費生活用品安全法など、商品の安全・安心に関連する法令の教育を法務知的財産部とグループ品質保証部が連携して定期的に実施するほか、事故発生時の対応や未然防止活動への理解を促進し、関係社員の意識向上に努めています。

未然防止活動　azbilグループ品質保証委員会で、ヒヤリハット事例からの未然防止活動推進、万が一の事故発生時の報告・対応体制の周知徹底を行い、お客様の安全・安心を損なう事態の未然防止に努めています。

安全な商品の提供　安全設計標準、安全リスクアセスメント認証制度といった仕組みを構築し、各事業の開発部門、サービス部門で商品のリスクアセスメントを行うとともに、安全審査部が活動の状況を評価しています。

品質保証／安全・安心の体系

お客様から信頼される商品を提供し続けるために以下のような方針、規程、標準、マニュアル体系を構築し、運用しています。



人材

事業環境の変化に柔軟に対応し、体質強化を継続的にできる「学習する企業体」を実現するアズビル・アカデミー。お客様とともに現場で価値創造ができる多様な人材の育成を推進しています。

アズビル・アカデミー

グループの教育・研修機能を統合する組織として、アズビル・アカデミーを2012年11月に設立しました。4年目を迎え、2015年度(2016年3月期)は以下の取組みを実施しました。

▶ キャリア・デベロップメントとしての異動者教育

海外事業や海外生産の推進、国内外におけるフィールドエンジニア・サービスエンジニア人材の強化といった事業構造改革に合わせ、人材の最適配置と育成を強力に進めるべく、2012年度(2013年3月期)から累計500名以上、2015年度では70名以上の人材の再配置及び事業や職種を転換する社員に対する異動者教育を実施しました。定期的にフォロー面談を行うなど、新たなキャリア形成のための支援を行っています。

▶ グローバル研修

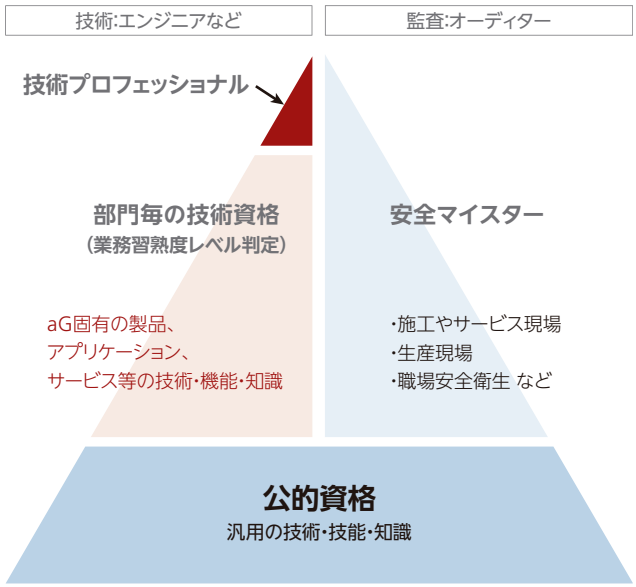
お客様並びにグループ事業のグローバル展開に伴い、社員のグローバル化対応及び海外現地法人における人材育成が急務となっています。2015年度は国内で実施しているリーダー層へのマネジメント基礎教育を中国の海外現地法人に展開し、2016年度(2017年3月期)以降エリアや教育内容を拡大する予定です。また、海外現地法人のスタッフ系社員をアズビル本社に留学する制度をスタートします。本社で様々な業務オペレーションを学んだ社員が、現地法人の経営を担い、さらにグループ全体で活躍することを期待しています。

▶ ソリューション教育

国内社員向け階層別教育の実施時期を前倒しして、若手社員が早期に主要なビジネススキルを習得できる研修体系を構築しています。特に論理的コミュニケーション力や課題発見力、問題解決力の強化を図る内容としています。

▶ 技術プロフェッショナル認定制度

2014年度(2015年3月期)より、技術伝承の視点からグループ内トップクラスの技術力を持つ社員に「技術プロフェッショナル」の称号を与える制度を制定しました。2015年度までにビルディングオートメーション事業の計装技術者計5名を認定し、今後、他の事業領域に対象を拡大する予定です。

教育体系

技術プロフェッショナルの位置付け